

継承からあらゆる『楽しい』の出発点へ

中日ビルグランドオープン 井戸義郎社長インタビュー



名古屋・栄の待ち合わせ場所として親しまれた旧中日ビルの合言葉「中日ビルで会いましょう」を継承し、あらゆる『楽しい』の出発点となるよう「中日ビルで、会おう」をコンセプトワードに掲げて、蘇った新中日ビル。中部日本ビルディング社長、井戸義郎さんに現在の感想などをお聞きしました。

(聞き手 塚本隆編集長)

井戸 義郎 (いど よしろう) 1955年4月生まれ、名古屋市出身。78年慶応大学経済学部卒中日新聞社入社。東京本社や名古屋本社の広告局長を経て2013年取締役広告局長、14年取締役広告担当、17年常務取締役広告担当、20年から同社相談役、中部日本ビルディング株式会社社長。

塚本 中日ビルグランドオープン、おめでとうございます。

まず、4/23 オープンしましたが、ものすごい人出でした。いろいろとご苦労があったと思います。率直な現在の感想をお聞かせください。

井戸 ありがとうございます。名古屋で53年間にわたり愛された中日ビルの建て替えには、プロジェクト検討開始から約10年の歳月を要しました。このプロジェクトに携わった皆様、ご出店いただいたテナントの皆様、そして温かく見守ってくださった地域の皆様など、多くの方々の支えがあってこそ、ここまで来ることができたと感じています。改めて心より御礼申し上げます。

中部地区のランドマークビルとして、中日ビルの開業は非常に高い関心を集め、多くの方々に見守られてきました。その結果、開業以来、連日4万人を超えるご来館をいただいています。旧中日ビルがそうであったように、新しい中日ビルも、より一層皆様に愛されるビルとなるよう、従業員一同、心新たに努力してまいります。

— 「中日ビルで会いましょう」を、改めて実感させられましたが、GWを過ぎ開業前と開業後で、想定内、想定外はありましたか？

井戸 「中日ビルで会いましょう」は、地域の待ち合わせ場所として親しまれていた、旧中日ビルを象徴する合言葉でした。新しいビルの

開業にあたっては、旧中日ビルのエッセンスを継承しつつ、中日ビルがあらゆる『楽しい』の出発点となるよう、「中日ビルで、会おう」をコンセプトワードに掲げています。

開業日から非常に多くの方々にご来館いただいております。特に開業日には、約1,000人が列を作るほどの賑わいでした。開業日に関しては、来館者の待機列を敷地内で収容するのが難しいと予想し、事前に隣のサカエヒロバス様にご協力いただき、万が一の場合に備えて待機列の整理場所としてお借りました。広場の半分以上が待機列で埋まる状況となりましたが、待機していただいた皆様も無事に入館できて、ほっと胸を撫で下ろしました。

また、館内に関しましても、来館の皆様が安全かつスムーズに回遊できるよう、事前に入念な導線整理計画をして開業に臨みました。おかげさまで、これまでのところ事故なく運営できていますので、今後も気を抜くことなく円滑な運営に努めていきたいと考えています。

— テナントの中には“名古屋初出店”も、かなりあったとお聞きしました。ご苦労もあつたと思いますがいかがでしょうか？また、初出店などの評判は？

井戸 出店いただいた93店舗のうち、31店舗が名古屋初出店、5店舗が業態初出店となります。いずれも非常に魅力的な店舗ばかりです。